

第一回「ことな」の語り場 意見表明文

2012年10月10日

特定非営利活動法人社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ
「ことな」の語り場～人より早く「おとな」になる前に～実行委員会

私たちは2012年8月28～30日の間、施設や里親家庭を巣立つ前に仲間と出逢い語らうことを目的に、高校生を主体として集まった（参加者：児童養護施設入所中の高校生10人・里親家庭で生活している高校生1人・社会的養護施設を巣立った大人7人・施設職員2人・ボランティア10人・日向ぼっこ職員2人。計32人）。

この10年程の間に社会的養護の当事者団体が増え、私たちの代わりに社会に声をだしている。その一つである日向ぼっこでは、2007年に当事者の声を集め、施設で嫌だったことや良かったこと、もっとこうして欲しかったこと、退所後、苦労したことを意見表明文として発表した。5年が経過しているが、挙げられている内容は、現在入所している私たちの思いと通ずる。ある程度自由になってきているとは思いますが、社会的なハンディや偏見、精神的なハンディ（不遇感・欠損感・低い自己肯定感・被受容感のなさ）といった根本的な問題は未だに解決できていないように感じる。また、社会資源は増えていっているが施設間格差はより広がっているようにも感じる。

私たち子どもは、施設や里親を選ぶことができない。選ぶことのできない施設や里親家庭での養育・保護に優劣がでてしまうのは、絶対あってはならないことだ。この「格差」を是正するためにも、施設や里親家庭に入所中の私たち子どもの声を集め、意見表明文として社会に発信したい。

1. 施設や里親家庭でよかったこと、嬉しかったこと

- ①基本的な生活リズムが身についた
- ②一時的な休憩ができた
- ③衣食住が確保されて、安心して生活できた
- ④学校に通えるようになった
- ⑤職員さん・里親さんと一緒に出かけたり、話を聞いてくれたりして嬉しかった
- ⑥自分が取り組みたい事を否定せずに、一緒に応援して動いてくれて頼もしかった
- ⑦ちゃんと怒ってくれた（理不尽な理由で怒らない・無関心じゃない）
- ⑧甘えさせてくれた（旅行に連れて行ってくれた・自分のことを必要としてくれた）

2. 施設や里親家庭で嫌だったこと、こうして欲しいこと

(1) 日々の生活

- ①小さい子が優先されてしまい、大きい子は後回しになってしまう
- ②一緒に暮らしている子どもから暴力や盗みをされ苦痛。性被害の場合、加害者はすぐに移動させられるのにこういう場合はすぐに動いてもらえず、自分の精神状態も不安定になってしまう
- ③高校生の門限が18時というのは早すぎる→遅くなる時などは書類での申請ではなく、口頭や電話連絡を入れるなど、自然なやり取りにしてほしい
- ④職員・養育者による格差・施設内格差（ユニット・フロア・ホームによる格差）・施設間格差の是正→子どもが納得できる基準・指標を示してほしい
- ⑤不満を諦めずに済む仕組みを作ってほしい→ルール作りなどの運営に、子どもも参加させてほしい。困ったときに相談できるように、日ごろから苦情解決委員や当事者団体など第三者との交流も持ちたい（権利擁護の確立）

(2) 養育者に対して

- ①職員の入替わりが激しくいやだ
 - ②機嫌が悪かったり、対立していたりすると気を遣う
- ⇒養育者に対しての教育や研修・スーパービジョン・レスパイトケア（一時的な休息）の仕組みを確立してほしい

(3) 自立を控えて

- ①自立する前に、自分の生い立ちの整理をしたい→入所中に自分のアルバムを作って欲しい
- ②自立の体験・練習をもっとしたい→年齢や能力相応の社会的な経験を通じ、常識やマナー・モラル、失敗体験・成功体験から自信やコミュニケーション能力を身につけたい
- ③アルバイトしたお金を自由に使えない（金銭管理をさせて欲しい）
- ④奨学金の情報が十分に得られずに困った→自立に必要な情報を子どもに直接伝えてほしい

3. 児童相談所への意見

- ①高校生 11 人中 2 人は入所前に、施設に入るか、里子になるか自分で決めることができた（選ぶことができよかったが、どのようなメリットやデメリットがあるのかをもっと教えて欲しかったと言う声も）
- ②担当のケースワーカーが対応してくれない。誰が担当か知らない子どももいる→そもそも子どもにとってどのような存在なのかをきちんと説明し、日ごろからきちんと関わってほしい
- ③措置変更の基準や妥当性、その理由をきちんと示してほしい
- ④親への支援をきちんとしてほしい

4. 制度・社会の問題

- ①被服費が月に 2 千円（※）しかなく、足りない（※施設によってバラつきあり）
- ②大学に行くために塾に通いたい
- ③アルバイトをしないといけない→退所後に備えたい気持ちもあるが、部活や趣味などに没頭できるのは今だけという葛藤もある。子どもらしく過ごしたい
- ④18 歳で退所するのは不安。20 歳まで施設にいたい→退所後の養育者との関係があいまいで不安。退所後は今いる子に気を遣って連絡しにくい。子どもと職員が互いに連絡を取り合い、つながり続けたい
- ⑤身元保証人がいない（家を借りることが難しい・就職できない）→身元保証人確保対策事業があるが、申請期間は短く、施設長が保証人になってくれない場合もある
- ⑥特に 18 歳・19 歳の間は、アパート賃貸契約・就職の際の身元保証人、パスポート取得や携帯契約する際に保護者の同意がないと取得することができない→未成年後見人など、もっと活用できないか
- ⑦金銭面での支えが自分の収入のみで不安→社会的養護に限らず身寄りのない若者が利用しやすい貸付や支給がないままでは、貧困の世代間連鎖を断ち切ることは極めて困難
- ⑧「少年院に入っているんじゃないか」と誤解されたことがある。生い立ちや自分の置かれている環境を、学校の友だちや先生に話すことができない→難しいかもしれないが、差別や偏見を持たずにありのままをわかってほしい。自分たちで頑張るには限界があるので、もっと大人たちに啓発してほしい

以上に挙げた事柄は、前述の通り昔から社会的養護の課題として横たわってきたと思われる。このことは被措置児童がサイレントマイノリティであり、社会的養護の問題が社会化されてこなかったことを如実に物語っている。少子高齢社会にも関わらず、子どもの虐待死が絶えない昨今。救われた全ての子どもたちが、「生まれてきてよかった」と思うことができるよう、社会的養護の改善・充実を求める。願わくは、5 年後・10 年後には同様の意見表明文を出さなくてもよくなるように、私たちも当事者としての発信を続けたい。

施設の経験生かし活動

母の日・父の日
募金キャンペーン



親への思いを、頑張って生きる子どもたちへの支援に託す、毎日新聞の「母の日・父の日募金キャンペーン」。近年、児童養護施設などで育った人々が、自らの思いを社会に発信したり、経験を生かして施設の子どもたちに向けて活動したりする「当事者活動」が増えています。施設の子どもを対象にしたイベントの支援に取り組む20代の女性と、他の施設で暮らす仲間とのキャンプを企画する高校生たちの姿をお伝えします。【榊真理子、写真も】



キャンプの内容を相談する園美さん(右)
＝東京都文京区の「日向ぼっこサロン」で

温かなご飯の匂いが漂い、笑い声が響く。児童養護施設や里親家庭などで暮らした人々が集まる東京都文京区の

「二人じゃない」伝えたい

「日向ぼっこサロン」。ここに来う2人が実行委員となって計画中なのが、社会的養護の下で暮らす10代後半を対象にしたキャンプ「『ことな』の語り場だ。8月28〜30日、長野県で、将来の夢や自立への思いを語り合う。

実行委員の一人は、都内の児童養護施設で暮らす高校3年生の男性(17)。父子家庭で父の虐待を受けていた。父は毎夜、明け方まで酒を飲む。「寝るんじゃない」と言われ、晩酌した。酔っぱらうと殴られ、たばこを買いに行かされた。電気もガスも水道も止まった。警察に駆け込み、中学3年から施設で暮らす。施設では、朝起きるとご飯がある。洗濯した服で学校に

行ける。「衣食住の心配がないのがうれしかった」。だが余裕ができると、今まで抑えていた感情がわき出てきた。父への憎しみ、恐怖―復讐する夢を見てうなされた。だが、今は夢がある。「自分と同じように社会的養護の下で育った人たちが生きやすい社会にしたい」

大学で福祉を学びたいが、費用が工面できるか不安もある。「同じ境遇の高校生と、

進学や就職、親への気持ちなどを語る場がほしい」と思い、キャンプの企画が始まった。一方、もう一人の実行委員、主婦の昌美さん(26)は「日向ぼっこ」みたいな頼れる場所があることを伝えたい」と思いを語る。

児童養護施設などで暮らし、18歳でパチンコ店に就職した。「行くところがなく、寮がある仕事を探すしかなかった」からだ。住み込みの仕事を転々とした。

「私には誰もいない。死んでも泣いてくれる人がいるのか、と自問自答した」。行き詰まり、育った施設の職員に泣きながら電話した。でも、職員にも日々の仕事があると、思うと、頻繁には頼れない。そんな時に、3年ほど前のテレビ番組で「日向ぼっこ」の存在を知る。携帯電話のサイトで必死に電話番号を検索した。寂しくて、一日も早く行きたかった

サロンで同じ気持ちで生きる仲間ができ、仲間の一人と結婚した。「今は、つらくなったら連絡する人の顔が思い浮かぶ。一人じゃない」。キャンプを通じて、そういう経験を伝えたいと思っている。

キャンプへの申し込みは27日までに、サロンを運営するNPO法人「日向ぼっこ」☎03・5684・0977へ。